

やすらぎだより

2
月
号

陽気で緑にあふれた生活 それがやすらぎ園です

施設長コラムバックナンバーホームページ掲載しています。

コラム第164号

「一人の面会者」

施設長 植田 誠



入所されている方の成年後見人という立場で、毎月欠かさず県内二か所の施設におじゃまして15年が経過した。さすがに何年も定期的に訪れると、お互い顔が知れ気心も知れてくる。

「いつもありがとうございます」

例え言葉は儀礼的だとしても、互いの表情からにじみ出る親密さは訪問する度に増すようだ。これまで施設を内から見聞きすることが当たり前となっている私にとって、面会者という立場で他施設を定期的に訪問することは多くの気付きを与えてくれる。

ある介護スタッフさんはいつも気安く声を掛けてくれる。

「植田さんのところは、インフルエンザはどうですか」

手が止まっている姿をお見かけしたことはない。常々目配せされているが、それでいて私に向ける心が粗雑であったと感じたことはない。ベテランらしく動きはスムーズ、私たち外来者対応にはいつも余裕が感じられる。私が施設職員であることをご存知かどうかは知らないが

「どこの施設もウイルスには苦労したはりますね」とのこと。

「うちも色々ありますが・・・」と言いかけはしたが、

テキパキとした動きと対照的な穏やかなその口調を耳にすると、根掘り葉掘り伺いたい衝動は自然と過ぎ去り、「邪魔をしてはいけない」という遠慮が勝り話を閉じた。

他の施設の玄関に一步踏み入れると、何故か背筋が伸び心も引き締まる。「うちとの違い」に目が行き、「うちとの違い」を感じながら、最後にはその理由を考えるようになる。勿論、学ぶべき点と誇れる点、双方を感じ双方を持って帰る。

15年間に及ぶ面会者としての繰り返しは、被後見人に対する活動が目的なのは言うまでもない。硬い言葉でそれを「身上監護」と言うが、身の上を監護していると思ったことは一度もない。

一人の面会者としての役割は、これからも変わりはない。



社会福祉法人やすらぎ会 実施事業

- 特別養護老人ホーム やすらぎ園
- 在宅サービス事業所
- 在宅介護支援事業所
- 訪問介護事業
- 訪問入浴介護事業
- 短期入所生活介護事業
- 在宅介護支援センター
- 天理市東部地域包括支援センター
- ケアハウス やすらぎ
- 介護予防関連連事業
- グループホーム むつみあい
- 住まいの生活支援事業